

広報 ごじようめ

発行所 秋田県五城目町役場 編集 秘書課 電話(018876)代 2100番
印刷所 湖東印刷所 電話(018876)2430番 一部 5円
郵便番号 018-17 毎月 1日・15日発行

無料人権相談所開設

・とき

九月十一日午前十時から
午後三時まで

・ところ 大川出張所

交通事故無料相談所開設

・とき 九月十六日

午前十時～午後三時

・ところ 第三会議室

気軽においでください。何れも
秘密は守られます。



町長から成人証書を手渡される大石君と原田さん

(広報紙中にある写真を欲しい方にはお
あげします)

気軽なでたちで

去る8月15日午前10時から、広域体育館において、昭和52年度「新成人を祝う若人たちのつどい」が行われた。五城目町の今年の新成人は343人となっており、当日の出席者は215人であった。

夏の成人式とあって、男女とも軽装なでたちの参加で、町がネライとする気軽に参加できる成人式に、照準がピッタリと合っていた。

健康を守ることは～最高の親孝行

式典のプロローグは、先輩と協力して昨年50年振りに復活した郷土芸能ササラを、内川青年会有志による力強い披露であった。そのあと加賀谷町長から、新成人に与えられる貴重な権利と義務に、責任と誇りを持って社会を豊かにする原動力となるよう期待すると、成人証書を手渡される。そして新成人からは、緑の町づくりに役立ててほしいと、カンパ資金26,764円を記念植樹目録として町に贈った。このあと町長から次のようなお祝いと激励の言葉があった。

- ・成人になった意義を考えてほしい。
- ・忘れてはならない8月15日という日～その歴史的な背景。
- ・五城目町でなければ見い出せない良さを引き出す。町に対する尺度。

若者たちの明日に期待する

昭和五十二年成人式

など、3点について考える素材が提供された。
なお成人自らの健康を守り続けることは、最高の親孝行であり、自ら守るべき最低の義務である。尊い命を是非大切にしてほしいと呼びかけた。

おかあさんありがとう

今年のおかあさんありがとうは雀館の館岡ヨネ子さんであった。女の細うででひたすら苦節20年、今はその労が報いられて、4人の子どもたちは立派な社会人となっている。おかあさんにとって、これが何より宝であり幸わせであると語っていた。石川誠君と須真さんから、その労苦に対する感謝の花束が贈られ、新成人からは盛んな拍手がおくられた。

社会の発展に努力を誓う

友情の火をともし中で新成人を代表する、石井政則君と伊藤勇子さんは、今日まで育ててくれた父母と周囲のみなさんに感謝し、成人としての責任を自覚しながら、社会の発展に努力することを誓った。

多彩なプログラムでいどられた成人式は、若者たちの明日に期待する盛んな拍手で幕が閉じられた。

△広報サロン▽

社会に役立つ人に

坊井地 伊藤 勇子



二十才を迎えて、ようやく社会人としての第一歩を踏み出すことになった。
成人……昨日までは他人事のように思っていた私であったが、これからは自分の責任をよくよくかみしめながら、社会の物事に対処していきたい。
私には今まで、責任という重さがなかっただけに、両親にも社会にも甘える精神的な構造があったように思う。それがあの日を画して一人の成人として取り扱われるのだから、やはりそのスタートはよほどしっかりと自覚が必要なのだろう。
人々はそれぞれの立場にありながら、町や村をそして県や国を、更に地球全体を住みよきようにと努力する様子が、いろいろな情報で訴えてくれるが、その反面人間のみにくい場面もまた多い。宇宙を駆けめぐる科学の発達に驚ろきの目を見張り、同族、異民族をいにする理由をつけて殺し合をする戦争の姿に悲しみを深くする。このアンバランスは人間の性であろうか。私はそう思いたくない。人みな幸せを追求することは同じでありそこに個人の差はないと思う。私たちは、町や先輩たちから、成人の門出に当り盛大な式典を挙げてもらった。私はあの感激を忘れずに、一意専心仕事を通じて社会のために役立ちたいと思っている。それが人々の幸につながり、みにくさを消す役につけばこれに勝るものはない。

△町内の永久橋シリーズ▽

馬場目川の清流に立つ中屋敷橋

本町は山と川にめぐまれた町で町を東西に貫く馬場目川は、出羽丘陵にその源を発し、これに富津内川、内川が合流して八郎潟残存湖に注ぐ。

これらの河川には大小一二七の橋が掛っている。

車両の増加に対応

車両の増加と大型化に伴い、耐荷を要求される現在、木橋は維持費がかさむばかりでなく危険が伴う。また道路が立派に整備されても橋がなければ道路の機能は十分発揮されない。

安全な交通を確保するため、町では昭和四十五年に策定した長期総合開発計画に添って、危険度の高いものから計画的に橋の永久橋化を進めてきた。

まず、国道、県道にかかる橋梁三十七橋は昭和四十八年度までにすべて鉄筋コンクリートの橋となった。

永久橋化を計画的に

また町内にかかる橋は計画時に九〇橋あり、それまでの永久橋化率は五〇・九％であった。

昭和四十五年から四十八年まで九橋を永久橋化した。(永久橋化率六四・四％)

混合橋の十五橋を除く主なる木橋十七橋を昭和六十年まで一〇〇％永久化するべく、計画的にこれを架替えており、現在残る橋は坊村橋(着工中)一橋残のみとなった。この十七橋の総工事費は約三億二千三百万円である。

橋のコンクール

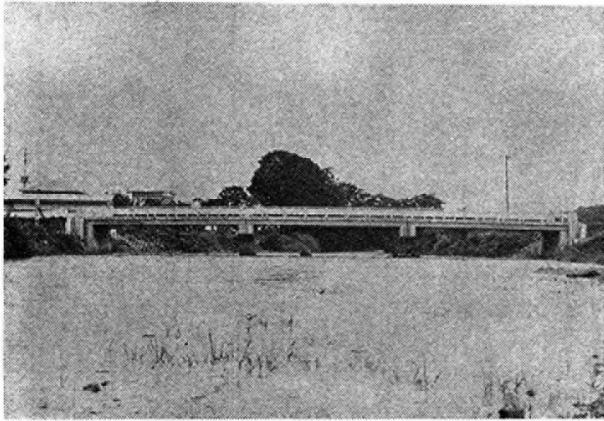
橋の永久橋化に当っては、水と周囲と自然環境が調和した幾何学的な美観の保持に留意してきた。

町では坊村橋が完成した後、町内にある国、県及び町の橋のコンクールを行いたいと考えている。そこで、今回から永久橋となった十七の橋梁を順次紹介して行くこととした。

その第一回目として馬場目中村部、平ノ下部落の間に掛かる中屋敷橋を取り上げてみた。

中村、水沢間の重要橋

この橋は、中村、寺庭と平ノ下水沢間を結ぶ重要なものである。



馬場目川に美しい姿をみせる中屋敷橋

昭和四十九年に山村振興整備事業の一環として総工事費三、七〇〇万円をかけて着工し、五十年に完成した。

橋の大きさは、延長四十五M、巾員七Mで、平の下と中村の間にくっきりと孤をえがくように部落間を結んでいる。

「新しい橋の完成で交通が大へん便利となりみな喜んでいて」と中

昭和五十二年

少年の非行化を防ぐ

湖東部防犯組合連合会総会

去る八月二十四日午後一時から町民センターで昭和五十二年湖東部防犯組合連合会総会が開かれた。

席上優良防犯団体として富津内支部第一部(代表大石喜代松)が

村部落の佐藤さん。

「将来はバスでも入ってくれるようになればこれまでの陸の孤島から大きく飛躍が可能であり、これも町のおかげである。」中村の児玉さん。

夕陽を受けて馬場目川に浮かぶ中屋敷橋の姿が大へん美しい。

阿部落の今後の発展を静かに見守っているようだ。

対策として、「カギかけ」、「隣家への声かけ」運動と被害にあった場合の一一〇番利用について住民に浸透するよう機会をとらえて啓蒙を図る。

②被害発生地域を重点とした計画的な防犯診断、パトロールを行う

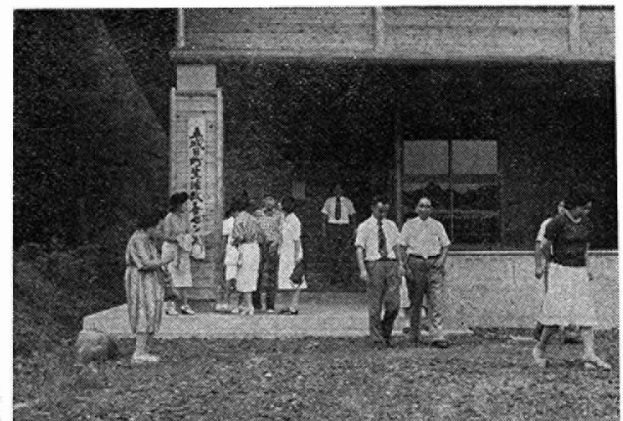
③宿直体制の完全でない官公署事業所、金融機関に対する保安体制の継続的指導を行い、合せて警報機の自主的設置を促進する。

少年非行防止活動

①少年の溜り場、喫茶店、スナック、下宿などの実態を把握するとともに、これら少年による薬物乱用防止を図るため、映画会等を開催し、その実態を知らせるとともに長期的に補導し解体を図る。

②有害環境の浄化活動の月間に合せ、図書、自動販売機設置業者、書店に対し成人コーナーの設置や自動販売機による悪書の販売自粛を依頼する。

③暴走族対策
暴走族はつねに新しい芽が出ようとして現状にあるため、町民総ぐるみにによる監視体制で臨み、改造オートバイ、乗用車に乗っている者のナンバーチェックをして



五城目町生活改善センター前で(恋地)

あと驚くことしきりで変り行く町の姿を見て感心する。

ふるさとを見直す

恋地開設スキー場生活改善センターを見学、杉沢発電所でターイン通林道、高千穂村公園、郡境割山峠に着くみんなで記念撮影する。

空に青雲、山々緑の石碑を前に清々しい峠の空気を胸いっぱいすい込む。峠を下るバスは国道二八五号線を野鳥の森へ向けて走る。

ここで昼食しながらいろいろ自己紹介めいた話が始まり、賑かなムードでいっぱい。

来年もやってほしい

このあとセンターの懇親会では「自分のふるさととは大へんすばしかった。こんな大きな町によくまんべんなくつばな施設をつけたものだ。」という、参観者の一様な声である。

ふるさととは遠きにありて思うものではないが、日に日に移り行く町の姿を外から見てもいいまた新しい五城目町の印象を強くするものではないかという。来年もぜひ企画してほしいとの声を大切にしたい。

初のふるさとめぐり

町では、ふるさとを離れている人たちが盆に帰省するのを機会に変り行く町の姿をみてもらおうとことしから新しく企画した「ふるさとめぐり」は去る八月十六日午前九時町民センター前を出発した見知らぬ人たちが前にバスは予定のコースを走る。途中で皆さん話はずみ仲良しになる。コースは広域基幹林道町線に入る門前部落から広徳寺前を通り、これが、秋田市黒川から富津内台御蔵下經由内川湯ノ又に抜ける道路とすいてみなびつくり、しかも大部分を国、県の補助事業でやっている。



ひまわりのもと

親子で収穫を楽しむ

去る八月二十一日、ひまわり家庭教育学級(代表石井慶子)では春から育てあげたトウモロコシ枝豆などを、親子で喜びの収穫をした。

この学級は、小学校二年生の母親三十名で構成され、自主的な学級運営をするなど注目されているグループである。

今年度は学習計画の一環として親子が自然に親しみながら取り組めるものを計画したのが、この畑作りである。

場所は、一番町後側に当る馬場目川河川敷で、荒れるにまかせていた土地だけに、ズブの素人がクワを入れる時はさすがの意気込み

も、これで作物が出来るかしらと一抹の不安が先に立った。

それでも一度振り上げたクワを、ザクツと入れない事には女の意地が？立たないとはかり耕やし、四月十七日種まき、五月から八月までの除草当番を決めるなど、農家顔負けの作業日程をたてて取り組んだ。

安ずるより何とやら延百人の学級生の熱意が通じてか、作物はそれぞれ立派に育った



ゲームに興ずる親子

この間学級生の工藤タミ子さんのご好意で、二トン車で肥沃な土

を入れてもらうなど、家族の協力もまた大きかった。
親子で土いじり、それも畑作業では農村地帯でもあまり見かけられない昨今の姿である。
取り入れのあと、その川原でゲームを楽しむ、川端会館で自分たちの収穫物に舌づつみを打ったが親子の目と心に温かいものが流れた。

青少年健全育成の

世話人決る

五城目町青少年健全育成協議会では、このたび次の方々を世話人に委嘱し、各部管内における青少年関係者とお互いに連絡を密にしなが、青少年の健全育成を地域ぐるみで推進することになった世話人の氏名、地域担当は次のと

る。も語る必要もまたないのである。畑をかこむ大きな日まわりが首をたれ「来年もまた作ろうね」小さなサルビヤは、ひまわりの顔を下からのぞきこみ「うん」とこれに答えていた。
それはこの学級を象徴する姿でもあった。

おりである。

田町 佐々木瓜志(新)
今町、御蔵町、小池町

川原町、新町 湊(再)
昭辰町 清(再)

一番町 佐藤 清(再)
古川町 桜庭 昭三(新)

紀久栄町 金子重太郎(再)
長町 鍋谷 芳郎(再)

米沢町 今村 方介(再)
築地町 佐藤 栄(新)

仲町 小玉 久男(再)
新堀町 伊藤 宗三(再)

雀館 伊藤 武治(再)
希望ヶ丘 佐々木勝太郎(再)

中川原 鳥井 哲夫(新)
館町 渡辺 隆雄(再)

矢場崎 金子 欣一(新)
上高崎 館岡 晴作(再)

高崎 館岡 勇治(新)
下高崎 村上 勝美(新)

久保 本間 三郎(新)
上樋口、下 一関 銀蔵(新)

樋口 狼田 幸蔵(新)
野田 狼田 清司(再)

岡本一、二区 千田 卓男(新)
浦横町 佐々木善蔵(再)

帝釈寺 小野 政雄(新)
町村、門前 草皆 三夫(再)

伊藤 広作(再)

蓮内台、小野台 金野房治(新)
平ノ下 金野 清美(新)
寺庭、中村 佐藤 俊朗(再)

水沢 加藤 雄一(新)
窓地、坊井地 佐々木鉄美(再)

杉沢 石川 一夫(再)
合地 金沢 武夫(再)

下山内 小沢 進(新)
上山内 島山 幸雄(新)

富田 原田 行雄(新)
八田、台御蔵下 伊藤重雄(再)

脇乙 伊藤忠四郎(再)
落合 小玉 星子(新)

北々口 近江 茂雄(新)
黒土 伊藤 竹雄(再)

湯ノ又 千葉ワカ子(新)
浅見内 工藤アサ子(新)

小倉 佐藤 真悦(再)
大川一区 伊藤金千加(再)

大川二区 嶋崎 喜助(再)
大川三区 小林 貢(再)

大川四区 長谷川恵一(再)
下樋口 笹川 哲男(新)

石崎 伊藤 容一郎(新)
西野 金子 耕一(新)

谷地中 佐藤久兵衛(新)

人事異動

▽収入役室長 渡辺 礼吉
▽管財課長 伊藤 文雄
(管財課主査)

お知らせ

来る九月九日町民センターで第十四回教育振興大会が行われる。これにさきだち、この日午前九時五〇分から十二時まで、

「湖東部の古代史について」をテーマに秋田大学教授、新野直吉氏が講演する。一般の方の来場を心からお待ちしている。

欧米の教育事情視察記

②ヨーロッパの巻

ケネディ空港を飛び立つて一路チューリッヒへ。大西洋上六千三百キロの行程を七時間半で飛び終えて無事クローテン空港に到着したのが五月二十二日午前二時五十分、朝露にぬれたマロニエの並木が、なんともすがすがしく感じられたことでした。

スイス、西ドイツ、イギリスで学校訪問、教育行政機関訪問をしました。これらの国々に共通している点として次の三点をあげることができそうです。

一、学校制度の多様性
日本のように六・三の区切りで

すべて同一学齢による義務教育システムを採用している国は、全く見当たりません。同じ小学校でもA校は七歳入学で十二歳卒業、B校は五歳入学で十一歳卒業、C校は六歳入学で十歳卒業というぐわいです。

そんな多様な学校が、なんの混乱もなく受け入れられ、機能している点は、まさに驚異です。

二、厳しい進路の選別

小学校卒業の時点で、将来の進路を見通した厳しい選別を行なっている国が多く、このための特定委員会は学校の教師、医師、心理学者、ケースワーカー、カウンセラーなどで構成されているようです。一度判定されたコースは特別な事情がない限り変更できないと

いう厳しいものになっています。

三、能力に即した教育の重視

普通学級でも大方はA・B・C三ランクに分けた指導が一般化しているほか、障害をもつ子(知能、言語、聴力、視力、身体虚弱など)の障害別指導が大変重視されており、これが推進のために必要な人件費、施設設備費、教材費などが、州や市から潤沢に配当されていることも注目されたことでした。

五小校長 渡辺 俊雄



学校訪問で「スイスのさくらさくら」の伴奏する筆者

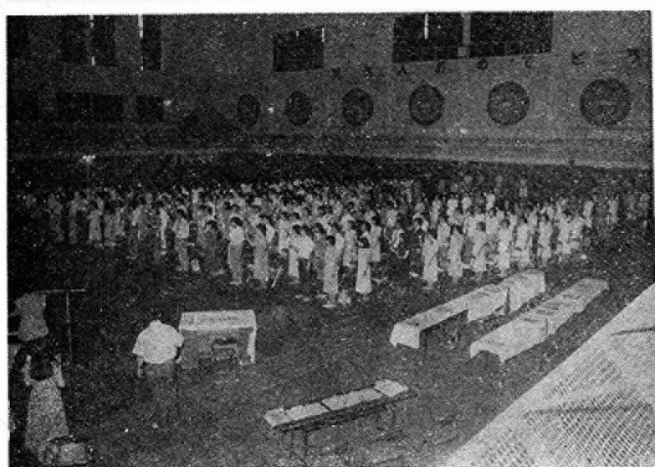
成人式ミニグラフ



馬場目青年会の先輩も応援



年間の十五日生れ熱揃い



友情の灯をかがけて



豊かな郷土(くに)づくりに頑張ります



「成人の日」を迎えて

帝釈寺 石井 政則

と、国民の祝日として「成人の日」が定められている趣旨を考えてみるとよいと思う。それは、自分はおとなになったのだと自覚し、自主独立の精神をもつことも

この栄えある「成人の日」を境とし、認識をあらたにし、若さという特権を生かし、二度とない青春を有意義に過ごし、成人として堂々と生きてゆきたい。

このたびは、私たちのために、成人の祝いをおひらきくださいましてありがとうございます。ところで、おとなになる、成人になるとはどういうことかという

に教養をいっそう高めて民主主義国家の建設に協力していくということであり、そのために、この日から私たちに選挙権が与えられるのだということであると思う。



おかあさんありがとう



洋々たる前途に輝きを



緑の町づくりに参加したい

盛況だった盆踊り

町内各地の盆踊り大会は、去る八月十四日からいっせいに開催された。豊年満作の願いをこめてドンツクドンツク、ドンドンツクツクドンツクツクの拍子で踊る者、昔から変わらぬかけ声もよく、深夜まで響きわたる。何んともいえない哀愁をこめた郷土芸能である。十八日行われた富津内地区の盆踊りは、コミュニティセンター横のグラウンドでおよそ二百名のご婦人たちが、思い思いの服装で踊りまくった。

そろいのゆかたに身を託し、華麗な踊りを披露してくれる。また、こどもたちは、元気な掛け声も勇ましく、野球スタイルやシンデレラ、おばこなど荒けずりな踊りであるがなかなかエネルギーシユなもの、大人顔負けの大盛り上がりであった。

大川地区の盆踊りは、往年の大川盆踊りを再現しようと青年会できりから始めた。かがり火を燃しながらの勇装な踊りは、きわめて特異な発想で、郷土色豊かな大川地区の昔からの踊りが復活した。また八月二十三



全町盆踊り大会のひとコマ

をほりあげていた。川盆踊りを再現しようと青年会できりから始めた。かがり火を燃しながらの勇装な踊りは、きわめて特異な発想で、郷土色豊かな大川地区の昔からの踊りが復活した。また八月二十三

再び戦争をくり返さないため

五城目町戦没者追悼式

さる八月二十六日午後一時半から町民センターで昭和五十二年度五城目町戦没者追悼式が行われ、敗戦後三十三回忌を迎えた。この町から戦争に出て亡くなった人は陸海軍五三七柱ある。あのいまわしい太平洋戦争の傷跡は、永久に人々の脳裏から消え去ることではない。「再び銃を取ることをないよう」と願わずにはいられない。

会長に伊藤与四郎氏

富津内コミュニティの推進委員会ではこのほど会則をつくり、新しい役員を選んだ。同地区の大手にあるコミュニティセンターを効率的に活用し、地域住民の意志の疎通をはかりながら連帯意識を高めようとするもので会則をつくって活動の柱にすることにした。

役員はつぎのとおりである。

- ▽会長 長 伊藤与四郎
- ▽副会長 長 伊藤与四郎
- ▽副会長 長 伊藤与四郎
- ▽会計監査 長 伊藤与四郎
- ▽事務局 長 伊藤与四郎

声

事故は防止し得なかつたのか

問：めぐる季節はまた「きのこ」のシーズンを迎えているが、先般七月十五日号の広報で、故島井戸司雄氏の遭難状況など詳しい報告がのつていたが、それを防止し得る対策はなかつたのか、またその為の心得など知らせてほしい。

「きのこ」シーズンに再び悲しい事故をおこさぬためにも、是非お願いしたい。 — 一町民 —

連絡をすみやかにすることが人命の尊重に

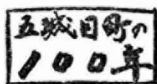
(一) 一行が目的地に着いて入山したのが八時頃と見られ、十一時に集合地点に戻るようになっていたの

とで入れられ、しかるべき手を打つべきであった。

(二) 家族への連絡は午後六時三十分頃で、準備して現地向うために三時間以上の時間を要したので、地元警察署も捜索に打つ手がなく翌十四日朝となった。

(三) 結果論であるが、同行の者が人命を尊重するならば(一)の通りにしておれば、もっと明るい結果が見られたものと思われる。

五城目消防署



84

木村 謹治 ②

小野 一 二

謹治は明治三十二年(一八九九)三月に大川尋常小学校を卒業し大久保小学校(現昭和町)高等科に入學した。それは大川小学校の大和田校長が大久保小学校長に転任されたからであった。父が大和田先生に傾倒して、わが子の教育を任すことにしたのである。

謹治は大和田先生の家にあずけられ、そこから学校に通った。先生の厳しい顔のもとで、より深く勉学させ、他人の釜の飯を食うことによつてさらに自己を磨きあげるといふ、いわば明治型の「全人

に出て、暇の道を遠ざかって、母の手製のマワシントビを着た彼を見送った。ワラジをはいた細い腰が、夕日の中にみえなくなるまで母は立ちつくす。母はいつも涙ぐんだ。

やさしい愛でつんだ母を、謹治は深く敬愛していた。ナヲは昭和十二年冬に他界したが、そのときの彼の落膽ぶりは、まわりのものがおどろくほどであった。

弟の雄吉は、母は物語の好きな人で兄が文学を一生の仕事としたのは、母親の血をうけたからだといひ、さらに「兄にさむらい的なあったとすれば、それは父の系統を引くかも知れません。が、どちらかといえば兄はおふくろの子だ」と思ひます」と回想記のべている。

明治三十五年、秋田中学(現秋田高校)に入學し、卒業も近いころになって退学処分をうけ、上京して慶應普通部に編入して中学の課程をおえた。排斥のストライキの主謀者の一人とみられたからである。秋中時代の謹治のあだ名は「ネツ」といったが、勉強にも選手であったボートの練習にも人一倍熱帯を帯びるからであった。

彼は正義感から主謀者の一人となり、熱を帯びたまま一途ストライキに突入したのであった。それだけに、処分をうけても悔しいことはなかった。父は一言も叱りはしなかった。

彼らを処分した添田飛雄太郎は後に代議士となった豪傑のはまれ高い男であった。添田校長は「退校させた生徒は惜しい者ばかりだが、どこへ放つてもひとかどの者になれるから心配はない」といふたという。

第七回 県民スポーツ大会五城目選手団結団式

伊藤団長ほか一七四名の活躍を期待

去る八月二十三日(日)午後七時半から広域体育館で第七回県民スポーツ大会五城目選手団の結団式が行われ、各選手とも最後までりっぱに闘うことを誓った。

小玉則子 加藤シゲ子 石川ミサ子 (壮年) 監督 猿田 正一 大石定辰 坂谷幸治 齊藤喜代治 石井 浩 石川茂直 館岡 昭雄 武石 正 千田光夫 嶋崎 純美 猿田正一

宮田紀義 松田博光 畠山 辰美 田原 仁 石井偉宗春 相 撲 監督 小玉 吉雄 伊藤清悦 佐藤富也 小玉康一郎 石井民雄 畑沢 強 佐藤 米吉 八柳光儀 陸 上 監督 大石 喜郎 石井正夫 石井五兵衛 原田芳博 川村 勉 長谷川喜晴

各種目の参加選手はつぎのとおりである。(敬称略)

・バレーボール (男子) 監督 小玉 崇 畠山秀美 阿部博光 沢田石一夫 伊藤栄一 伊藤正美 嶋崎 和良 猿田利彦 山田紀雄 草皆 潤一 大石 保 大石一夫 伊藤 辰雄 (女子) 監督 大石 定辰 伊藤信子 千田智恵子 小玉美恵子 小玉博子 小野みち子 佐藤由美子 小熊綾子 金子千恵子 小玉久美子

・剣 道 監督 渡辺 悦也 安達悦郎 工藤直友 石井 秀雄 松橋 肇 石原将稔 柴田 喜芳 B 監督 森 貞雄 中川 昇 松橋政英 佐藤市之助 沢石道男 木村康男 浅野 鈴紀

・卓 球 (男子) 監督 猿田 悦雄 猿田 優 佐藤恵治 館岡 信雄 渡部光人 (女子) 監督 一関 国雄 藤崎恵子 一関洋子 工藤 昭子 金野咲子

・ソフトボール 監督 荒川 要悦 荒川要悦 猿田昭夫 塚本 晋二 勝田重信 八柳 隆 伊藤日出男 大原国雄 千田光夫 伊藤 弘 高橋幸悦 伊藤浩司 工藤祐一郎 伊藤英紀 伊藤蘭子 小玉 博子

・バスケットボール (男子) 監督 畑沢 正作 本間金春 本間敬悦 工藤 政彦 金子成敏 猿田 始 武田 豊 原田功輝 鎌田俊二 加賀谷龍悦 館岡重敏 堀 彦也 小玉喜美雄 (女子) 監督 館岡 昭雄 小熊志保子 一関寿満子 渡辺輝美 藤田真紀子 齊藤タカ子 桜庭郁子 荒川美紀子 島崎 祐子 永井初子 猿田 厚子



選手宣誓をする原田真由美さん

= 大川地区消費者教室 =

食品添加物の取りすぎに注意



熱心に学習する皆さん

去る八月二十二日(月)午後一時から農協大川支所で大川地区消費者教室が開かれ、三十五名の婦人たちが集まった。今回は私たちの生活における食品添加物の実態をテーマに、県生活センターの専門職員を講師に二時間半にわたって熱心な学習が行われた。

はじめに添加物の映写フィルムを見ながら、様々な動物実験や各種データをもとに添加食品の現状が説明された。 つづいて県生活センターの講師が食生活における添加物について話された。

添加食品の常用をさけないこと、また、常用しないこと、着色度のきついものについては製造年月日をよく確かめること。添加物の歴史は、まだ新しい。昭和三十七年におきた森永と素ミルク中毒事件をきっかけに三三四

生産コスト引き下げを図るため大量の添加物を使用してきた。主なものは、合成着色料、人工甘味料、合成保存料、合成殺菌料、発色剤、乳化剤などで「絶対に安全である保証はない。人体に残らず排せつされる物質であればよいが、全くその逆で体内に蓄積されてだんだん体をむしばんで行くところに危険性がある」、ネズミを使った実験にはつきり表われている。

よく水洗いして調理 店から買う生うどん、とうふ、ところてんなどには合成殺菌料いわゆる加酸化水素、消毒用に使うオキシフルが含まれ、ひどいときにはにおいが強烈である。こんな食品は必ず水で洗ってから調理すること。

会員たちは、たくさん色、紅しようがの赤色、しよう油にカビがつかないなど生活の中で食品添加物に対し率直な意見を出しあっていた。

ウソや誇大な表示は 禁じられている

不当表示は、ウソの表示やわざと錯覚させるような表示です。①品質や量を誤認させる表示は許されない。

天然果汁が入っていないのに○ジュースと表示したり、大きな箱のお土産が、あけてびっくりアゲゾコで、中味が半分しかなかったりすることです。

②安くみせかけるにせの価格表示は禁止されています。出血サービス、店じまい売りつ



昭和五十二年 秋田県芸術祭

「あきたの文芸」作品募集

秋田県芸術祭の一環として、広く県内から文芸作品を公募し、優秀作品をあきたの文芸に収載してその業績を顕彰するとともに、県民の創作意欲の高揚と文芸活動の普及振興を図ろうといふ原稿を募集します。

・応募資格
秋田県内在住者で満二十才以上とする。
青少年(満十五歳以上十九歳)は別途募集する。

三回目の

馬場目川ゴミ回収

としよりが明日の夢を育てる会



みんなの川はみんなできれいに〜ゴミ回収に励む会員たち

去る八月二十三日(火)午前八時半から、としよりが明日の夢を育てる会(本間養蔵会長)でこの三回目の馬場目川河川敷のゴミや土手の草刈りなど二時間にわたって大掃除を行った。

会員二十五名が手にホーキや鎌を持って土手の草刈りや河川のゴミを取り積み上げて燃す。初秋のさわやかな青空の下で、汚れた河川とはうらはらに汗だくで奮闘する会員たちの姿がまた大へん好印象を与える。どうもありがとう。ゴミの不法投棄があつて清い川にしたいものである。

②応募原稿の一枚目に次の事項を記入すること。

・募集部門 作品題名
作者名(ペンネームの場合は本名を()書きすること。住所、性別、年齢、職業、連絡電話番号、所属同人誌名、作家歴)

・応募作品はすべて未発表のものであること。
・使用する漢字は原則として、当用漢字音訓表により、それ以外の漢字にはふりがなをつけること。また、かなづかいが新旧のいずれかに統一すること。

・原稿締切 五十二年十月末日

・審査
主催者の委嘱する審査員により行い、結果は十二月上旬県内新聞紙上に発表する。また、優秀作品には賞状及び記念品を授与するとともに「あきたの文芸」に掲載する。

・表彰式、文芸誌刊行
五十二年三月(予定)

・送り先

〒〇一〇 秋田市山王四一―二
県教育庁文化課「あきたの文芸」係
電話(〇六)二二二四

なお、募集要項希望の方は五十円切手貼付の返信用封筒を同封して上記係あて申し込むこと。

・その他

全部門にわたって応募できるが一人一部門につき一編とする。応募作品は原則として返却しない。応募者に「あきたの文芸」一部贈呈。

町内部落探訪記シリーズ ④

林業の部落にふさわしい浅見内

浅見内部落(松橋勇会長、一六八世帯)は林業の町づくりにふさわしいところである。大場沢、滝ノ下などに散らばる山林は相当な面積である。昭和四十五年に浅見内生産森林組合(組合長松橋勇、会員一六三名)をつくり、二〇町歩に及ぶ山の管理運営に当たっている。

これまで、すでに一六〇町歩の植林を終り間伐、下刈、枝打ちなどの事業を行っており、今後の成長が楽しみである。

また、地元の中学生の新卒者を対象に四十五年から郷土の山をつくるため植林を行っている。まさに森林資源の豊かな地にふさわしいものである。

昭和四十七年から三カ年にわたり事業費一億一千万円をかけて圃場の基盤整備事業を行った。谷地田橋を架設し、川向に広がる七〇町歩の水田を整理し、暗渠排水、農道の整備などによって農機具の搬入もたやすくなり、作業能率がぐんと向上した。全くこれまではとては想像を一変した。

松橋部落長は「町から谷地田橋の新設や圃場整備など多大の援助をいただき深く感謝したい。二〇町歩に及ぶ部落山林を大切に育て、部落の一人一人が幸せになるように森林事業を重点的に推し進める。」

町に対しては、農村総合整備モデル事業を早く実施に移していただきたい。このための用地については全面的に協力して行きたい」と述べ、今後も林業の町づくりに貢献したいとの強い決意であった。

出稼就労前の

健康診断をどうぞ

日頃本町出稼対策事業には、格別のご協力をいただき深く感謝している。

本町の出稼者数は年々減少の傾向にあるが、反面、出稼先での事故や病気等で入院される方が多く特に病気で倒れる方が非常にふえている。

せっかく出稼互助会に加入していても、就労前健康診断を受けないで病気になる場合の見舞金の給付が非常にむずかしくなっている。又、出稼中の不幸をなくすためにも、出稼する前に健康診断を

レントゲン撮影、血圧測定、心電図検査、尿検査、聴打診、眼底検査
五、受診料金 無料
六、その他

・ご家族の方もお揃いでおいで願いたい。
・出稼互助会にも必ず加入しよう。

当日加入手続きをした場合にかぎり、十月一日付にして受け付けする。

・出稼労働者手帳を必ず持参願いたい。

・出稼労働者手帳は三年間有効であり、互助会加入の際に必要なので今回の健康診断の証明もします。

◎尚、不明の点があったら、役場産業課(T二一〇〇)へどうぞ

すくすく育つ玉いぶき

浅見内老人クラブ一岡で、この春、内川小学校の斜面に玉伊吹八十五本を記念植樹した。

この植樹は、同クラブの老人たちが、こどもたちの行く末に期待をこめ、玉伊吹のようにすくすく育ってほしいとの願いからであった。玉伊吹は、すっかりこどもたちになじんだせいか若芽がぐちぐちり出して内川小の文字をくつきりうかばせて道行く人に愛きようをふりまいていようだ。

さんさんと輝く夏の太陽を胸いっぱい浴び未来に向ってまっすぐひた走っている。

老人クラブの人たちも青々と育つ玉伊吹の前にこどもたちまた一つ夢がきたと大喜びである。

四、健康診断の内容

